



2000 REPORT

千葉興業銀行レポート

—— 千葉県に根づく地元銀行として ——
よりたくましい銀行に生まれ変わります



企業理念

地域とともに

お客さまのために

「親切」の心で

目次

ごあいさつ	1
‘浅井頭取にインタビュー’	2
当行の業績	6
当行の考え方	7
トピックス	9
当行の概要と沿革	11
業務内容および主な業務・商品のご案内	12
店舗等一覧	18
資料編	20
資本の状況・株主の状況	39
組織等の状況	41
連結決算	42
開示項目	48

本誌は銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料です。

(注) 1. 本資料に掲載してある係数は、原則として単位未満を切り捨ての上、表示しています。

2. 構成比率は、100に調整しています。

ごあいさつ

皆さまには、日頃から千葉興業銀行をお引き立て賜り、誠にありがとうございます。

本年もここに、ちば興銀の経営方針、最近の業績、営業の内容などを盛り込んだディスクロージャー誌「2000千葉興業銀行レポート」を作成いたしました。ちば興銀について、より深くご理解をいただくうえで、お役に立てれば幸いに存じます。

ちば興銀は、2年後に創立50周年を迎えるにあたり、本年4月より新しい経営戦略として、再生のための戦略プラン“FOR NEXTAGE 50”をスタートいたしました。“地域とともに”、“お客さまのために”、“「親切」の心で”、をモットーに「少数精鋭・高収益で地域に信頼されるコアバンク」を目指してまいります。新しく導入した「エリア営業体制」のもと、個人ローンや中小企業貸出に特化した営業を展開することにより、収益力を高め自己資本を充実してまいります。

また、富士銀行グループとの業務提携により、株式公開、事業承継、M&A業務、相続アドバイス、不動産有効活用等の各種コンサルティング機能の充実、さらに各種商品のラインアップを拡充し、お客さまの金融サービスに関するニーズにお応えしてまいります。

今後とも、一層のご愛顧、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成12年7月

取締役頭取

浅井 和彦



「浅井頭取にインタビュー」

「自己資本充実に向けて」

「増減資計画について説明願います」

増資・公的資金導入等の一連のファイナンス計画について説明申し上げますと、平成12年3月期において自己資本比率が単体で0.45%（連結で0.4%）に低下し、4月28日に金融監督庁より銀行法および早期健全化法による「自己資本の充実」を求められました。

これを受けて当行では、すでに公表しておりますとおり、早期に自己資本の充実をはかるため、株式会社富士銀行、安田生命保険相互会社、安田火災海上保険株式会社を割当先として合せて280億円の第三者割当増資を行うことといたしました。これにより、平成12年3月期におきまして0.45%（単体ベース）に低下した自己資本比率はこの増資引受により、健全行の基準である4%台に回復いたします。

当行は、280億円の本件増資とあわせて433億円の減資を実施することにより、繰越損失を一掃し、財務体質の改善・強化を図ってまいります。

更に、より一層の自己資本の充実をはかるため、600億円程度の公的資金を申請させていただく予定です。これにより、平成12年9月末の自己資本比率は9%台後半となり、自己資本は飛躍的に強化されます。

「減資はどのように行うのですか？」

12年3月期決算において、688億円の損失を計上したことから、6月29日の株主総会において第78期損失処理案をご承認いただき、資本準備金を取り崩しましたことにより、405億円の繰越損失を残すことになりました。

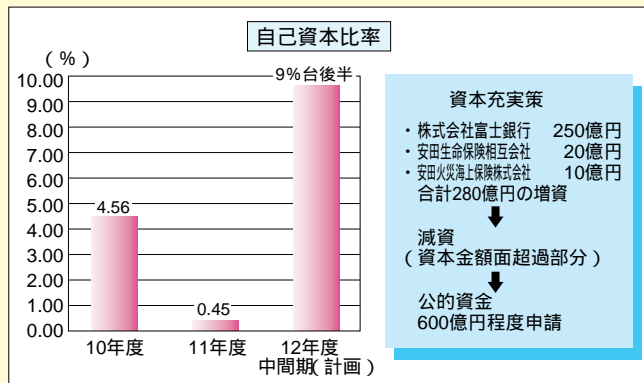
このようなことから自己資本を拡充し、収益力を強化し、配当をできる体質に転換するためには、繰越損失の一掃が不可欠であります。

このため、富士銀行をはじめとする新規増資分も含め、いわゆるプレミアム分（額面超過部分）の減資433億円を行う予定であります。この場合、プレミアム分の減資でありますので、株券・株数・額面・配当を受ける権利等には、一切変更がありません。

この減資手続きについては、8月11日に開催を予定しております臨時株主総会のご承認が必要になりますが、当行再生のために必要な手続きでありますので、株主の皆さまにはご理解をいただきますようお願い申し上げます。

株券・株数・額面・配当を受ける権利等には、一切変更がない減資

一連の自己資本充実策で盤石な財務基盤に



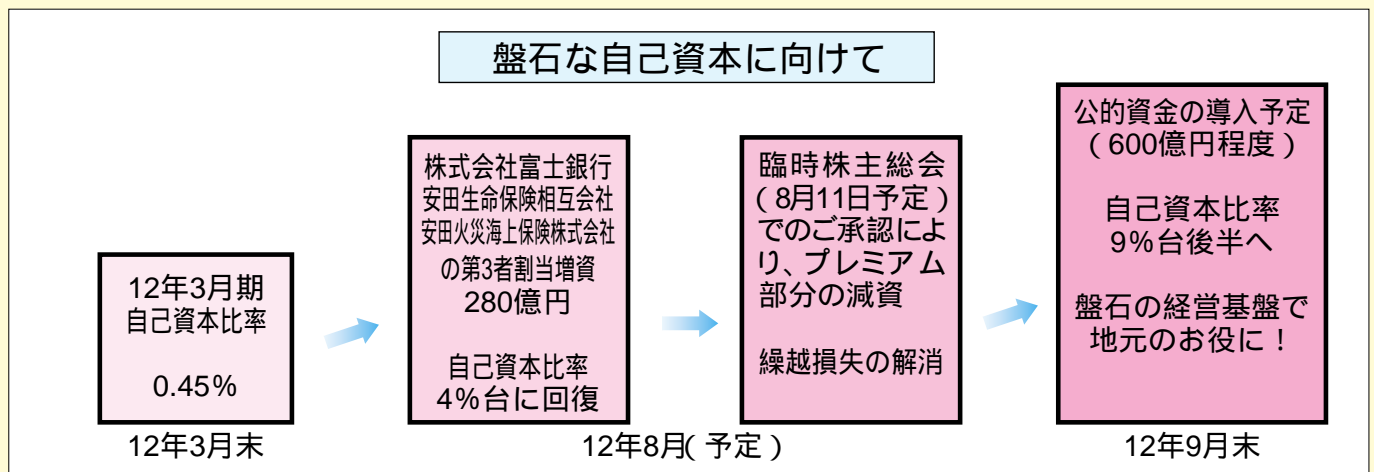
「公的資金の導入についてはどのようにすすめていくのでしょうか？」

このような増資と減資により、繰越損失を一掃し、自己資本比率は4%台を回復いたしますが、自己資本の一層の充実を図り、盤石な経営基盤を確立するために、公的資金600億円程度（優先株）の申請をいたします。9月の導入に向けて、経営健全化計画等について金融再生委員会との協議をはじめており、順調に準備が進んでおります。

9%台後半の自己資本比率を実現し、盤石な経営基盤を確立し、「再生への戦略プラン」を確実に実行することで、地域とお客さまの信頼を回復し、新生ちば興銀として再生を図ってまいります。

盤石な経営基盤確立のため、公的資金申請
9%台後半の自己資本比率実現へ

盤石な自己資本に向けて



[新経営計画 “ FOR NEXTAGE 50 ”]

千葉興業銀行頭取 浅井 和彦 あさい・かずひこ)
 昭和17年生まれ。慶応義塾大学卒。
 昭和39年4月千葉興業銀行入行。
 平成11年12月頭取就任。



「新経営計画 “ FOR NEXTAGE 50 ” とはどのような計画ですか？」

当行は2年後に創立50周年を迎えるにあたり、本年4月より徹底したロ - コスト経営と、地元のお客さまに役立つことを第一とした再生のための戦略プラン“ FOR NEXTAGE 50 ” をスタートさせました。

当行の重点施策として取組む「営業力の強化・ローコスト経営の徹底・リスク管理力の強化・組織風土の刷新」等について、富士銀行との提携強化を図っていくとともに千葉県に根づく地元銀行として「少数精鋭・高収益で地域の皆さまに信頼される銀行」を目指してまいります。

「ちば興銀が今後目指していく姿は？」

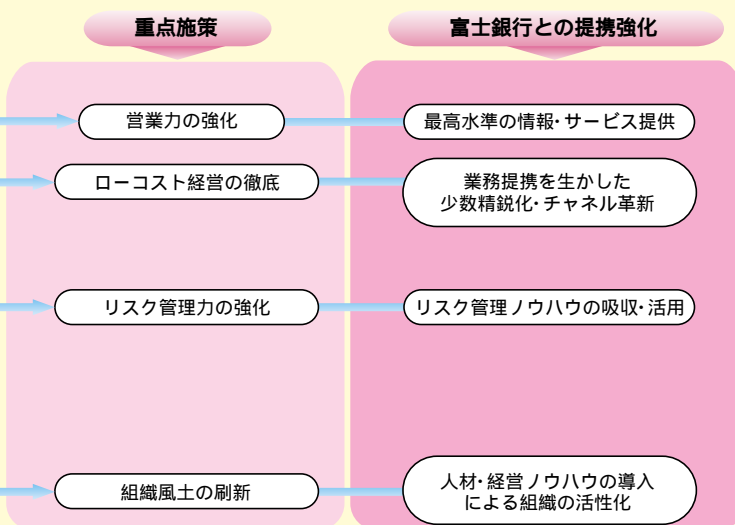
当行が目指すべき姿は、「少数精鋭・高収益で地域に信頼されるコアバンク」です。このためには、まず「県内地銀経営効率No. 1 の銀行」にしていかなければなりません。当行は、千葉県内における確固たる存在感を確立するとともに地域経済に密着し、「千葉県民の強い支持、熱い期待をいつまでもいただける銀行」を実現してまいります。

千葉県に根づく地元銀行として熱い期待にお応えします

再生への戦略プランでよりたくましい銀行に生まれ変わります

(単位：億円・人)

	平成11年度	平成16年度	
	実績	目標	増減
業務粗利益	410	454	44
経費	261	237	24
正味業務純益	151	233	82
不良債権処理	825	61	764
経常利益	725	156	881
当期利益	688	94	782
総人員	1,660	1,430	230
資本勘定	27	1,030	1,003



「富士銀行との提携はどのように進めていくのですか？」

今回の増資の引受依頼により、富士銀行との関係がさらに強化されます。

富士銀行グループとの業務提携により、株式公開、事業承継、M&A業務、相続アドバイス、不動産有効活用等の各種コンサルティング機能の充実、さらに各種商品のラインアップを拡充し、お客さまの金融サービスに関するニーズにお応えしてまいります。

今後、提携を一段と強化していくことにより、都銀水準の情報、商品、サービスをお客さまに提供していただけることになります。

これも当行の新たな強みとして、お客さまの強い支持が得られることと確信しております。

また、情報、商品、サービス提供力強化に加え、一連の自己資本充実策により自己資本比率も高まっていくことから、資金供給パイプは今まで以上に太くなり、一層県内中小企業のきめ細かな資金需要にお応えしていきます。

新商品の開発につきましても、短時間で審査が可能な「クイックローン」(仮称)の発売等によりチャネルを充実し、地元中小企業の資金ニーズに素早く積極的に応えたいと考えております。

一層きめ細かな資金需要に素早くお応えします

富士銀行との提携強化で都銀水準のサービス提供



「今年度の業績見通しについてお聞かせください」

① “再生への戦略プラン「FOR NEXTAGE 50」”を確実に実行し、平成12年度における黒字転換を確実なものとしていきます。

②平成12年度の業績見通しは、経常収益503億円、経常利益24億円、当期純利益21億円を見込んでおります。また、連結ベースでは経常収益545億円、経常利益28億円、当期純利益24億円を見込んでおります。

また、徹底した効率化と、戦略プランの推進により、収益力を強化し経営効率を高めていく計画です。

③多くのお客さま、株主の皆さま、千葉県民の方々にご心配やご迷惑をおかけいたしましたことを片時も忘れず「新生ちば興銀」づくりに全職員全力を挙げて取組み、当行をはじめグループすべての企業が一層の結束を図りながら、皆さまのご期待にお応えできるよう精励いたします所存であります。

黒字を確実に展望する業績見通し

「当行の課題は何でしょうか？」

当行の「再生」へのターゲットは、いま一度「お客さまの支持」を得ること、そして「収益力を回復、向上」していくことでもあります。

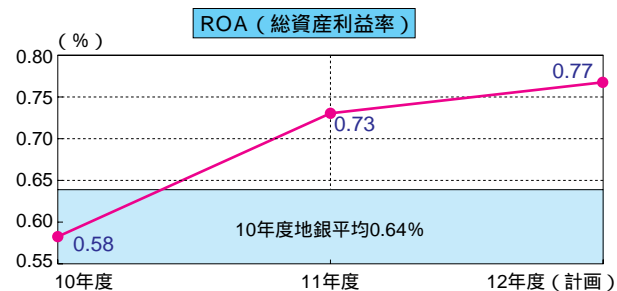
そのためにもまずCSにおいて千葉県内第一の評価をいただけるよう、全員参加のCSナンバー1運動を展開してまいります。

もうひとつは中小企業貸出をはじめとした3つの重点分野に戦力を集中し、エリア営業体制の導入等により、再生に向け本部・営業店の総力を結集してまいります。

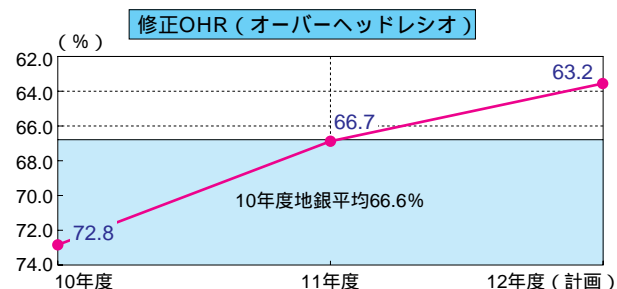
このようなことから営業力強化を図り、収益の基盤を確立していくことでもあります。

「お客さまの支持」と「収益力を回復、向上」
全員参加のCSナンバー1運動

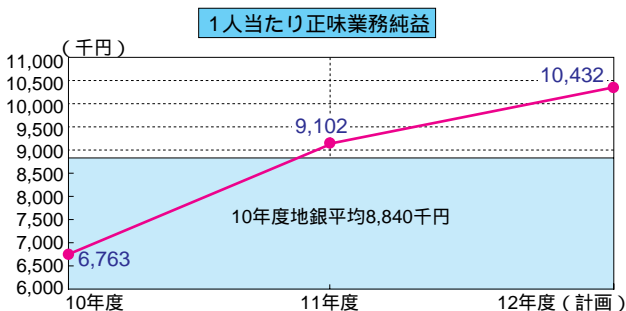
主要経営指標



ROA（総資産利益率）は、総資産に占める利益（正味業務純益）の割合を示す指標で、値が大きい程経営の「収益性」の高さを示します。



修正OHR（オーバーヘッドレシオ）とは、修正業務粗利益（業務粗利益から債券売買損益を控除）に占める経費の割合を示す指標です。値が小さい程経営の「効率性」の高さを示します。



*正味業務純益：本業の儲けを示す指標で債券5勘定・一般貸倒引当金を除いて算出
一人当たり正味業務純益は、従業員一人当たりの正味業務純益を示しています。

3つの重点分野

1. 中小企業貸出増強
2. 個人預り資産の増強
3. 個人ローン増強

【当行の業績について】

経営の環境

当期のわが国経済を概観しますと、年度前半こそ各種経済対策が浸透した結果、消費者マインドが改善し、景気持ち直しの動きが見られたものの、後半には公共投資が大きく落ち込んだことに加え、設備投資や個人消費も減少基調で推移したことから再び調整色が強まりました。

当行の営業基盤である千葉県においても、消費者物価の下落にもかかわらず所得の減少が響き需要に力強さを欠いたほか、引き続き雇用情勢の低迷や企業倒産に歯止めがかけられない状況の中、特に公示地価の下落率は住宅地で5年連続、商業地でも4年連続全国一となるなど、総じて厳しい状況が続きました。

銀行業界においては、メガバンク構想による経営統合や合併などが加速したほか、新たに流通、メーカーなどの銀行業への参入の動きが見られました。一方、地方銀行においても競争力強化を目的に様々な提携に向けた動きが広がりました。

現状想定される不良債権の償却・引当処理完了

長引く景気低迷と地価下落が、企業業績の悪化と担保不動産の目減りをもたらしたことに加え、財務の健全性を早期に確保し今後の業績回復を着実なものとするため、不良債権処理および株式の含み損への対応を実施いたしました。

①不良債権処理については、本年1月から実施されました金融監督庁の検査結果を踏まえた厳格な自己査定に基づく予防的な償却・引当を実施いたしました。

また、共同債権買取機構への売却債権の含み損全額に対する引当を実施いたしました。

これによる不良債権処理額が825億円となりました。

②株式の含み損への対応については、時価が30%以上下落している株式について償却を実施し、資産内容の健全化を進めました。

この結果、現状想定される今後の貸倒リスクを含めて償却・引当処理は完了したものと判断しております。なお、今後発生する不良債権・不良資産については、地価下落などを加味しても期間業務純益の範囲内で処理可能と認識しています。

平成11年度の業績

平成11年度については、総資金利鞘の改善による資金利益の好転と人件費の圧縮、店舗の統廃合などの経費削減効果等により、本業の儲けを示す正味業務純益が対前年比で22億円(+17%)の増益となりましたが、今申し上げたように不良債権処理を進めた結果、経常損失で725億円、当期損失688億円の計上やむなきに至りました。

預金 期中平残安定的に推移

預金については、当期末の預金残高は前期末比157億円減少し、1兆8,717億円となりました。

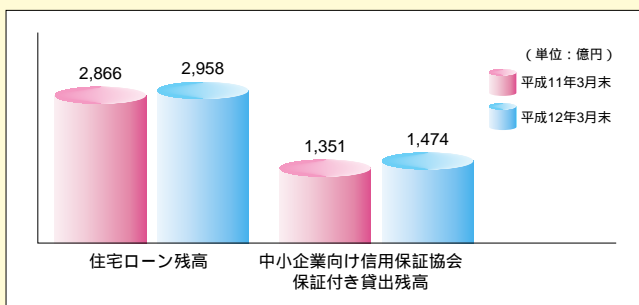
一方、11年下半期の期中平残は、個人預金を中心に安定的な資金の吸収に努めた結果、1兆8,874億円と安定的な残高で推移いたしました。

貸出金 保証協会保証付き貸出、住宅ローンともに増加

貸出金については、地域経済発展のため円滑な資金供給に努めてまいりましたが、景気低迷による資金需要の減少や不良債権の削減を積極的に図ったことにより、当期末の貸出金残高は前期末比1,625億円減少し、1兆4,150億円となりました。

なお、不良債権の回収とオフバランス化(部分直接償却実施)による貸出金の減少額は1,236億円となっております。

一方、当行の重点分野について積極的に推進した結果、中小企業向けの信用保証協会保証付き貸出残高は前期末比123億円増加し、同じく住宅ローン残高も前期末比91億円増加いたしました。



有価証券残高 安定的な資金運用

有価証券については、安定的な資金運用を図る観点から国債を中心に債券を積み増しましたが、株式の前倒し償却などもあり、前期末比99億円減少し、3,664億円となりました。

万全の準備で西暦2000年問題クリアー

コンピュータの西暦2000年問題への対応として、危機管理計画(コンティンジェンシー・プラン)を策定し、2000年1月1日に向け全行あげて万全の準備を進めた結果、当行のコンピュータおよび機器はすべて正常に稼働しております。

計画通りの店舗統廃合で効率化進展

店舗効率化と経費の節減を図るべく店舗統廃合を進めた結果、当期末現在の総店舗数は前期末比9ヵ店減少し84ヵ店となりましたが、店舗外現金自動設備については、お客さまの利便性向上の観点から平成11年4月に市川妙典サティ出張所を開設するなど総体で9ヵ所増加し、ミニバンク(独立型機械化コーナー)11ヵ所を含めて139ヵ所となりました。

【当行の考え方】

万全なリスク管理体制の構築

金融機関経営を取巻く環境の変化により、銀行業務にかかわるリスクも複雑・多様化・拡大している状況下、当行はリスク管理の重要性を十分認識し、組織体制・方針・規程・手法を整備し、経営の健全性と安定収益の確保に努めています。

・信用リスク管理体制

信用リスクは金融機関にとって最も大きなリスクです。当行は審査部および審査管理部で与信業務に係る信用リスクを管理しています。案件審査にあたっては、財務状況等与信先の実態把握を行った上で資金使途、返済原資、保全状況等を検討するとともに、債務者格付や自己査定の実施により定期的に与信先の実態把握に努め案件審査に活用しています。与信管理は与信ポートフォリオを業種別・規模別等に把握するとともに、融資ガイドラインの設定等により与信集中の防止に努めています。また、信用リスク定量化による高度なリスク管理手法の構築を進めています。さらに、集合研修、審査トレーニー等により営業店融資担当者、管理者の審査管理能力向上に努めています。

・市場リスク管理体制

当行では市場金融部（企画管理担当）が市場業務に係る市場リスクを管理するとともに、銀行全体の市場リスクはALMによる管理を行っています。ALM委員会を月1回開催し、リスク量、市場動向、市場リスク対応策等を検討・協議しています。

リスク量の計測は金利感応度分析、金利期日5年超資産残高等により計測するとともに、債券・株式についてはベース・ポイント・バリューによりリスク量を計測しています。

・流動性リスク管理体制

当行では、市場金融部（資金証券室）が円貨・外貨一体の資金繰り管理を行うとともに、資金会議、ALM委員会において経営環境、資金繰り状況、流動性確保状況、資金繰りリスク対応策等を検討・協議しています。資金ポジションはローンポジションの維持を原則とし、流動性の高い有価証券の保有に努めるなど、流動性リスク管理に万全の体制で臨んでいます。

・事務・システムリスク管理体制

当行は、総合事務部を中心に各部門それぞれに於いて事務取扱要綱等を整備するとともに、臨店事務指導や各種研修等により行員の事務水準の向上に努めています。また、監査部（検査担当）が営業店等の臨店検査を実施し事務管理状況等を点検しています。お客さまからの苦情等に対しては、総合事務部内にお客さま相談室を設置し対応しています。営業店事務の省力化と事務リスクの削減のため機械化および事務の本部集中やアウトソーシングに努めています。今後ともお客さまの信頼にお応えすべく事務リスクの軽減に努めていきます。

当行は、コンピュータシステムの運営にあたっての管理規程および防犯・防災・バックアップ・不正使用防止などに関する基準等を定めシステムリスクを管理しています。また、システム部門である総合事務部システムセンター内にセキュリティ管理者、システム管理者、データ管理者、ネットワーク管理者を配置し基幹システムのダウンや誤作動、システムの不正使用、外部からの不正侵入、災害等から発生するシステムリスクを管理するとともに開発担当、運用管理担当を分離し相互牽制を図っています。

・統合リスク管理体制

各種リスクを統合管理する体制として、当行は監査部内にリスク管理担当を配置し、各種リスクおよびリスク管理体制のモニタリングを行っています。

また、監査体制の強化として本年5月、監査部内に業務監査担当を配置しました。

コンプライアンス体制の構築

当行では、かねてより「コンプライアンス(法令等遵守)」を経営の重要な柱として捉え、その体制の充実を図ってまいりました。

当行は、コンプライアンスを単なる法令の遵守に止まらず、広く社会的ルールや倫理も含む概念として捉え、その基本理念として「千葉興業銀行倫理憲章」を制定しております。

その柱は、①健全な経営と揺るぎない信頼の確立 ②法令やルールの厳格な遵守 ③地域の発展への貢献 ④反社会的勢力との対決 ⑤経営情報の公正な開示の5項目であります。

具体的なコンプライアンス(法令等遵守)体制としては、監査部内に法務担当を置き、銀行全体のコンプライアンス体制を統括させると共に、全ての本部・営業店にコンプライアンス責任者を置き、コンプライアンス違反が発生しないように牽制すると共に、行員に対する研修等を行っております。

また、具体的な行動の基準である「行員行動規範」、コンプライアンスの仕組を規定した「コンプライアンス体制」、「コンプライアンス点検シート」によるモニタリングの実施、更には行員の守るべきルールを掲載した「コンプライアンスマニュアル」を作成し、全行員に配布し徹底を図っております。

加えて、全本部・営業店においてコンプライアンスの改善計画である「コンプライアンスプログラム」を作成し、日常の研修や点検を行い、コンプライアンス体制の構築に努めております。

エリア営業体制本格実施

本年4月から本格実施のエリア営業体制を核に中小企業貸出・個人ローン・個人預り資産の大幅な増強を目指します。

中小企業貸出は、渉外人員の戦略的配置により、個人ローンは住宅ローンセンターの設置・自動審査システムの導入により、個人預り資産はプライベートバンキング室を中心とした渉外活動強化などの戦略展開により、収益力強化の柱といたします。

中小企業貸出増強に対する姿勢より鮮明に

千葉県は農業・工業・商業のバランスがとれた産業県であり、中小企業の裾野も広いことから、当行は、千葉県を地盤とする地方銀行として、今後とも積極的に中小企業・ベンチャー企業に対し、積極的にお応えしてまいります。

中小企業貸出の増強は、当行の重点施策として収益の柱であると考えております。

4月からのエリア営業体制の導入により、6人のエリア長が現地に常駐する経営者として、各エリアの営業推進についての全責任を負い、エリア内の中小企業貸出の増強を図っております。

また、6月からは各エリアに中小企業貸出増強を任務とした、エリア法人担当部長を配置することを一部開始し、中小企業貸出増強に対する姿勢をより鮮明にしております。

さらに、プライベートバンキング室による、企業の事業承継、未公開株式の評価、自社株対策等のサポート体制も既に稼働しています。加えて、富士銀行との連携により、地元他行に無い高度な金融サービス提供が出来る体制となりました。

軽量化の最も進んだ銀行へ

スピード・軽量化戦略として店舗の統廃合、人員の削減も本格化、平成17年3月末までに当期末比、店舗13カ店の統廃合、総人員230名の削減を実現すべく、軽量化の最も進んだ銀行に向け本格稼働を始めました。

スピード審査体制、窓口一線完結処理、後方事務のセンター集中、権限の大幅な見直しなどの検討も本格化しております。

配当政策 無配を踏まえ、業績の回復に全力を傾注

当行は、銀行業としての公共性に鑑み、健全経営を確保するため内部留保の充実を図るとともに、安定的な配当に努めていくことを基本方針としております。

しかしながら、当期は平成12年1月から実施された金融監督庁の検査結果も踏まえ、財務の健全性を早期に確保する観点から厳格な自己査定に基づく予防的な償却・引当を行った結果、不良債権処理額が大幅に増加し、赤字

決算となりました。このため、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。株主の皆さまにご迷惑をお掛けすることになりましたことに対し、深くお詫び申し上げますとともに、事情をご賢察のうえ、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後につきましては、エリア営業体制による積極的な営業活動と徹底した合理化・効率化の推進、少数精鋭・高収益への体質転換を図ることによって、業績の回復に全力を傾注してまいります。



大切なお客さまをもっともっと大切にしたい

...今おすすめの商品・サービス...

ちば興銀ポイントサービス「コスモスクラブ」
入会ただけで受けられる会員特典と一定のお取引ポイントになると受けられるポイント特典を備えた**コスモスクラブ**。特典の一例としては、ATMの時間外利用手数料が無料、定期預金の新規預入金利が店頭表示金利の2倍など。日頃から当行とお取引いただいているお客さまに、感謝の気持ちを込めたサービスです。入会金・年会費も無料。メールオーダーサービスでも申し込み可能です。



電話の向うがすぐちば興銀の窓口です

...銀行に足を運ばずにちば興銀とお取引き...

電話一本で、振り込み・お振替え・残高照会・定期預金お取引などがご利用いただける**ちば興銀テレフォンバンキングサービス**。フリーダイヤルですので、思い立った時にいつでも気軽にご利用いただけます。iモード対応の携帯電話で、預金残高照会・入出金明細照会がご利用いただける**ちば興銀モバイルバンキングサービス**、インターネットのホームページでアクセスできる**ちば興銀インターネットバンキングサービス**も好評。お客さまに便利にご利用いただけるよう、ますますサービス内容を充実させていく予定です。



富士銀行との提携強化

...都銀水準のサービス提供へ...

平成11年9月20日から**富士銀行とのATM相互利用サービスを開始**。時間内は利用手数料無料、時間外でも全国の富士銀行のATMが当行のATMをご利用いただいている時と同じ手数料で、お引き出し・残高照会がご利用いただけます。

また、富士銀行グループと提携しコンサルティング業務を行っています。株式店頭公開・資産運用・相続対策などお客さまひとりひとりのニーズに素早くお応えするために常に万全の体制で臨めると考えております。



ますます広がるちば興銀のネットワーク

...旅先でも安心してお引き出しが可能...

平成11年10月25日から、郵貯との個別提携を開始。全国約24000台の郵便局のATM・CDがちば興銀のキャッシュカードでご利用いただけます。

...もっと気軽に 住宅ローンセンター開設 ...

地元の住宅建設・販売業者の皆さまのご要望に応え、住宅ローン専門の住宅ローンセンターをJR津田沼駅前と千葉駅前に新しく開設しました。住宅の購入に伴う住宅ローン・住宅金融公庫などのお借入れのご相談やお申込の手続きを、住宅を建築・販売される住宅建築・販売業者、ハウスメーカーの皆さまと共にご相談・受付させていただくことでスピーディな対応を実現しました。当行の行員が各事業所に直接お伺いしてご相談いただくことも多いですね。機動的なスタッフがそろっていますので、業者の皆さまに、よりご利用しやすくなりました。

地域貢献活動

いつも地域の一員でいたい

...ますます広がる地域貢献活動...

地域貢献活動は、当行の企業理念“地域とともに” “お客さまのために” “「親切」の心で”を具体的に地域の皆さまに示す活動のひとつです。

6月15日の県民の日や10月18日の千葉市民の日などにJR千葉駅で開催している「コスモスコンサート」。千葉女子高校オーケストラ部や県内の若手音楽家の協力と、千葉県など公共団体の後援もいただいて毎年行っているイベントのひとつです。

また、千葉県の自然の美しさや良さを再認識していただき、地元の温かさを見直すとともに環境保護を訴える意味も込めて「美しい房総」写真展を開催。JR千葉駅で常設展示しているほか、県博物館などでもご利用いただき幅広いお客さまにご覧いただいています。身近な「親切」を実践することで円滑な社会を築いていこうという「小さな親切」運動。当行は「小さな親切」運動の千葉県本部を担当し、クリーンキャンペーンをはじめとした環境美化運動、あいさつ運動、親切実行章の贈呈など、地域の方々と一体になった運動を続けています。



...中小企業、ベンチャー企業の育成...

地域の中小企業・ベンチャー企業育成のきっかけづくりとして行っている「千葉“元気印”企業大賞」。大賞を受賞された企業にはあわせて「千葉県知事賞」も贈られ、県内外から高い評価をいただいています。さらに今年度からは、受賞企業・応募企業を中心に「千葉“元気印”の会」を旗揚げ。勉強会・講演会を開催しネットワーク化を進めるとともに、力強い県内の中小企業をさらに強くしていこうとする活動を展開します。

